

～ 食農 ～

地域の食文化が薄れ、食卓と農業との距離が拡大しています。また、食べものとふれあう機会が減少していることで「命をいただく」という実感も薄れてきています。

このような状況の中、子どもの時から食料や食生活・食べものの大切さや地域の農業・農村の役割等について理解を深めるために体験し、学んでいくことが必要になっています。

体験する

生きていくうえで欠くことができない食べものについて、種まきや収穫など実際に農業を体験し、土や命とのふれあう中で、「食べ物の大切さ、命の大切さ、農業の重要性など」について体感する。

また、地元の農産物を利用した料理体験などにより、「食材の供給は農業から始まる」ことを体験する。



学ぶ

家庭における食事や学校給食、社会教育等の中で、生きることの最も基本的な要素である「食」と食材を支える「農業」について学ぶ。

- ・地元の農産物を利用した料理や昔ながらの家庭料理（郷土食）を通じ、食と農業の関係を学ぶ。
- ・自然環境に支えられている農業の仕組みや成り立ちを学び、環境についても考える。

～ 地産地消 ～

食生活は、地域ごとにその土地で生産された農産物等を独自の習慣や文化、伝統の中でつちかわれた方法により調理・加工・消費されてきました。

しかし近年の食生活は、交通網の発達、冷凍保存技術や調理加工技術の向上などにより、食品の流通が広域かつ大量に行われるようになり、その結果食と農業の距離が拡大し食に対する不安を招く一因となっています。

このような中、食と農業の距離を縮め、消費者と生産者の顔が見える関係づくりに関心が高まり、「地域で生産されたものをその地域で消費する」取組みが広がってきています。

この地産地消の取組みは、消費者の地場産業に対する愛着心や安心感が高まるとともに、地場農産物のブランド化や輸送に伴う環境への負荷の低減などにもつながり、さらに地場産業の消費拡大に伴う地域農業の活性化や農業者の営農意欲の向上につながることを期待されています。